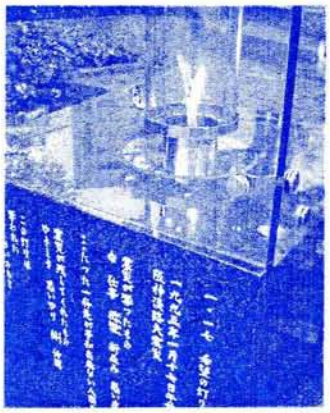
豊中市教育センター
〒560-0033　豊中市蛍池中町 3-2-1-600
TEL　06－6844－5290
FAX　06－6840－8127

平成19年（2007年）1月17日　第23号

## 1．17　希望の灯りを前にして



１１月後半、冬を感じさせる日曜日の午後、夫婦で何気なく訪れた神戸の街、二人の歩が止まりました。そこは、神戸市役所南隣り、東遊園地の一角「1．１７希望の灯り」の前。

震災で失われた命と培われた人と人とのつながりを語り継ぐために建立され、２０００年1月１７日5時４６分に点灯されたものです。恥ずかしいことですが、今まで私たちはこの灯りの場所について知りませんでした。仕事の関係で、あるいはプライベートで、東遊園地の近くを幾度となく通ったことがあるにもかかわらず、出会うことがありませんでした。このときは何かの縁だったのでしょうか。寒々とした冬空のもと、ゆらめいている「灯り」。ひっそりと、はかなげで、でも、ぬくもりを感じる確かな「灯り」でした。

１２年前の1月１５日、電車に乗り、幼かった３人の子どもたちをつれて、初めて夙川の兄の家に遊びに行きました。振り返ると、とてつもない長い周期の中で、その時に起こっても不思議ではなかった出来事です。震災当日、連絡がつかず、夕刻になり、いても立ってもいられず、車で兄の家を目ざしました。行く先々での見たこともない惨状が未だ目に焼き付いています。さらに、地域の小学校に避難された人々の中を必死に探す中、遺体が安置されている場の静けさが際だっていたことを思い出しました。

今、モニュメントに記されていることばが胸をつきます。

私たちは、この未曾有の出来事から学んだはず・・・なのに。

子どもたちを取り巻く状況が以前にも増してきびしい昨今、「人は支え合ういきもの、人はつながることができること」を大人として自分自身に問い直すとともに、１２年経った今、再度、子どもたちに伝えたい、伝えなければ・・・との思いを新たにしました。

「知らなかった、気づかなかった、できなかったと悔やむ時間を『これから』にむけて使っていこう。気づいた瞬間を、出会った瞬間を新たなスタートラインとして、まず、できることから始めよう」と。

（鈴木）

モニュメント　碑文

一・十七　希望の灯り
一九九五年一月十七日　午前五時四十六分
阪神淡路大震災

震災が奪ったもの
命　仕事　団欒　街並み　思い出
…たった一秒先が予知できない人間の限界…

震災が残してくれたもの
やさしさ　思いやり　絆　仲間

この灯りは
奪われた
すべてのいのちと
生き残った
わたしたちの思いを
むすびつなぐ

# 平成18年度（2006年度）教育セ

## 《ライフステージに応じた研修》

**総　合　研　修**

教科・領域研修

課題別研修

教職経験 0 … 10

### 小・中学校初任者研修

今年度は、９８名が豊中市で教員生活をスタートしました。市実施分とし
験等研修」「人権研修」「子ども理解研修」を実施しました。また、市内施
ました。学んだことを今後の教育実践で具体的に生かしていただければと

### 研修３４５

「時間的に難しくて」という声を受け、午後３時４５分から４５分間の
日々の教育活動で実践をしていただきたい視点を取り入れました。
第３期は、授業規律・学級開きについて実施します。

### 課題選択研修（ニューステージ研修Ⅱ）

大阪教育大学附属池田小学校･中学校の先生方と連携し、夏季休業中に教
業を行いました。今年度は、小学校算数・国語・理科・音楽が実施されま
教材研究、授業案の作成等、授業を構築するための準備の重要性を確認
言や考えをどう生かすかなど、実践的な研修となりました。

### 小・中学校10年経験者研修

本研修は、受講者の選択による教科指導・生徒指導等や教育課題に関する
授業研究及び課題研究等を行う校内研修からなります。今年度は１４名が受
市実施分では、教科指導研修として、互いの研究授業を参観し研究協議を
から、学ぶことは多く、小中連携の新たな視点から、それぞれの教科指導の
なりました。

### 課題総合研修（ニューステージ研修Ⅰ）

今日的教育課題に焦点を当て、学校教育活動の中での総合的な指導力を育
今年度は新聞社・教育コンサルティング会社・弁護士・コンビニエンス
「若手育成・キャリア教育・情報管理」について講義や参加型の研修を実施
参加された教職員の方々には、校内研修等で活用していただけたらと願

### ブロック交流研修（アカデミー研修）

今年度も各校園の日ごろの取り組みの公開と研究協議が行われました。本研修では幼稚園・小学校・中学校それぞれが授業公開ならびに校種の垣根のない研究協議を実施することで、授業改革及び異校種間のスムーズな接続と連携を図ることを目的としております。

公開いただきました校園の教職員の皆様に感謝するとともに今後とも子どもとの心のふれあいや魅力ある授業づくりを交流していきたいと考えています。

（概要は「教育センター紀要」平成19年（2007年）3月発行予定を参照して下さい。）

（中部）第四中学校　10月25日実施
　3年理科「地球と宇宙」　【授業者】宮
　3年理科「地球と宇宙」　【授業者】上
　2年理科「動物のくらしとなかま」
（北部）とねやま幼稚園　11月10日実施
　公開保育「一人ひとりの発達の特性を
（南部）小曽根小学校　11月28日実施
　6年体育「器械運動ーチーム跳び箱ー」
（東部）新田南小学校　1月19日予定
　6年図工「紙版画」　【授業者】速水

# ンター研修

実施研修の一部をご紹介いたします。

として「授業研究」「自然体
施設で社会体験研修も行い
と願っています。

私たちは、教師という立場から、つい上からものを言いがちになったり、時間がない時、子どもたちの意見に耳を傾けずに進めてしまうことがある。しかし、施設の職員の方が利用者の個性に合わせた対応をしておられるように、私たち教師も個々の児童と向き合い、それぞれの個性を大事に関わっていくことが大切だと改めて思った。　（社会体験研修報告書より）

の研修を実施しました。

私は、2年間続けて、この研修に参加している。
単元についてだけでなく、子どもたちが興味を持って取り組める教材について、みんなで考えていく中で、算数に対する見方や、考え方を広げることができたと思う。
（ニューステージ研修Ⅱ受講感想）

教科研究、2学期に研究授
ました。
認し、授業での子どもの発

音読・群読の指導や文学教材の読解、コミュニケーション力など多岐に渡り、深めることができた。授業ですぐ使える実践的なものから、国語科において子どもたちにどのような力を身に付けさせるべきかという根本的なことまで丁寧にご指導いただき、大変参考になった。
研究授業をさせていただけたのも大きな経験となり、このような機会がなければ接することのない、同世代の他校の先生方とともに授業を作り上げていくのはとても楽しかった。有意義な情報交換の場にもなり、参加してよかったと思っている。　（ニューステージ研修Ⅱ受講感想）

る校外研修と、実践を通じた
が受講しました。
を深めました。異校種の授業
の在り方を捉えなおす機会と

を育成する研修です。
ストアと各界の方を招き、
実施しました。
願っています。

「認められたい・褒められたい・役に立ちたい」を育てると「やる気」が育つという考え方は、まさに教育で言う「自信を持たせて自尊感情を育てる」ことに繋がる。
（ニューステージ研修Ⅰ受講感想）

】宮本　渉　教諭
】上畠　美幸　教諭
【授業者】稲葉　直美　教諭

を理解し　自立と共生を考える」

一」　【授業者】志水　絵里　教諭

水　由三子　教諭

**夏期教職員研修会**

幅広い分野から今日的教育課題に焦点をあて、見識を深める研修です。
今年度は、料理研究家　坂本廣子先生をお迎えしました。
実体験に基づく体感食育のお話は、今求められている教育とつながり、1時間半身に迫る思いで講演に引き込まれていきました。
（概要は「教育センター紀要」平成19年（2007年）3月発行予定を参照して下さい。）

# 「遊び」を通じて見えてくるもの

教育センターには、３歳半から中学校３年生までの子どもとその保護者が相談に来られています。子どもには、様子に応じてプレイセラピー（遊戯療法）を行う場合があります。プレイセラピーとは、子どもへの心理療法の一つです。大人への心理療法に、気持ちを「言葉」で表現していくカウンセリングがありますが、子どもはまだ大人ほど「言葉」を使いこなせません。そこでプレイセラピーでは、子どもにとって身近な「遊び」を用いて気持ちを表現していきます。

プレイセラピーでは、子どもに好きに遊んでもらう形をとることもよくあります。そのため、保護者が、「子どもはただ遊んでいるだけ？」「先生からの指導はないの？」と聞いてこられることもあります。おそらく、好きなことをして遊んでいる子どもの様子と、保護者が相談しに来られた悩みの解決がどう繋がるのかわからずに心配されているのでしょう。

プレイセラピーの研究家アクスラインは、「子どもは機会さえあれば、自分で自分の問題を解決しようとする」と述べています。実際、子どもは「好きに遊んでいいよ」と提示されるプレイセラピーの時間の中で驚くほど＜困っていること＞＜気にしていること＞を表現し解決していこうとします。

例えば、両親にケンカが耐えないＡさんは、人形の家で家族がケンカしている様子を再現していましたが、その家をひっくり返してしまい、再現していて辛くなった気持ちを表現していました。また、家庭以外では話そうとしないＢさんは、初めてのプレイセラピーで話そうとしませんでしたが、セラピスト（プレイセラピーを行う者）が描いた女の子の絵に、にっこり笑った口だけを描き足して、常に口元や言葉を意識していることを感じさせました。

このように自分の問題を表現し始めた子どもたちは、その表現がとがめられるものではなく受け入れられるものなのだと感じると、ゆっくりと自分の考えを深める方向へ、問題を整理する方向へと進んでいきます。

子どもがそう進んでいくためには、＜子どもが自由に表現できる場で＞＜子どものペースで＞ということが大事なようです。もっとも、それを普段子どもに行うことはなかなか難しいことでもあります。いろいろ経験してきた大人は、子どもが問題に対して示す表現や考え方に、ついつい「そうじゃないんだよ」「こうした方がいいよ」といったメッセージを投げてしまうこともありますし、忙しい時には子どもが話したい時に聞いてあげること自体難しい時もあるでしょう。

しかし、大人の都合で話を聞いても子どもは話そうとしないこともあります。大事な時に聞いてくれなかった大人の態度を覚えているのでしょうか？表現したい思いを抱えている子どもには、大人の手を止めてでも子どもが話したいタイミングで、また子どもの話したいように、話をさせてあげる時間が大切です。（山崎）